

日本養護教諭養成大学協議会オンラインミーティング報告 —新型コロナウイルス感染症対策のなかで、 養護教諭養成大学における教育の質をどう保証するか—

第3分科会報告「病院実習」15時10分～17時00分

担当：亀崎路子（杏林大学），三森寧子（千葉大学）

第3分科会のテーマである「病院実習」は，大学によって状況が異なり，多様な問題が生じていることが推測されました．そこで，まず各養成機関の参加者から，① 従来の実習について，② 新型コロナウイルス感染症の影響による課題とその対応策について話題提供していただくことで，現状を共有する場を設けました．そして，教育の質の保証についての意見交換を行いました．従来の病院実習の内容は多岐にわたり，その共有だけでも大変有意義でしたが，課題や対応についてさらに深めて話し合うことができました．

1. 実習施設に関する課題

実習施設の受け入れ状況が厳しく，当面は中止，8月以降に開始，来年2月以降は予定が立たない状況等調整が難しい現状が報告されました．実習にあたっては，感染防止に関する要件（抗体検査＋健康観察簿の提出，都道府県や市をまたいだ行動をしない，規定の三層マスクの確保，マニュアル遵守），感染防止対策について共有しました．また，感染状況による地域差もあり，受入れ可能な実習施設の少なさ，看護学生のための実習が優先される現状を踏まえ，実習不可となった場合の代替策の検討という課題が挙げられました．

2. 実習内容の再検討

実習が可能となった場合でも，学生の不顕性感染，障がい児等の感染防止の課題に対して，病院内でマスクをはずす機会を減らすこと，昼食時間や更衣室等の3密を避けるための実習時間短縮や分散，休憩室の不使用，患者さんと接触しないように見学のみとする，半日は大学か自宅での課題学習ならびにオンラインカンファレンスをするなどの工夫が共有されました．また，事後指導等でシェアリングをしてそれぞれが経験した内容を学生同士が学ぶという提案もありました．

3. 事前準備・事前指導について

マスクの準備，対面で事前指導ができないこと，学生の生活リズムの乱れへの懸念，抗体検査と予防接種のために病院に行かせられないこと，学生の感染に対する不安など多様な課題が挙がり，対応策として，実習2週間からの健康チェック表を使った学生の体調管理，ゴミ袋を使った防護服作成の紹介もありました．

4. 病院実習の代替策について

学内演習におきかえた場合について，感染防御の教育の徹底，病院スタッフによるオンライン講義，模擬事例などの課題の設定，コロナに関するレポート，ロールプレイを取り入れた演習等が共有されました．実際に，今年度すでにオンラインにシフトしている対応

の紹介や、養護教諭養成を視点において施設と構築してきた講話と施設見学を中心としたプログラムをオンデマンドかオンラインで行う案も共有されました。

教育の質保証に関する意見交換では、病院実習の目標について、対象理解・人間理解、看護の基礎的知識・技術の習得、健康問題の把握・予防及び解決方法の学び、学校と医療との連携の理解、病院や施設・職種の理解、多職種連携を通じたケアの学び、生命尊厳・健康の大切さの理解、倫理的態度、養護教諭への示唆という内容を共有しました。

新型コロナウイルス感染症をきっかけに、養成教育のあり方を言及する場となり、有意義な話し合いとなりました。参加された会員校の皆様には、活発な意見交換に感謝申し上げます。